



## 【対談 李登輝前総統・安藤忠雄氏】日台の未来 地球の未来 2

2008.4.4 08:28

### ■III 期待

#### 《取り戻したい心の柱》

李氏 日本も台湾も、経済のために犠牲にしたものが少なくない。ただ、私は日本には期待が持てると思いますよ。かつてパトリック・ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は、日本はまれに見る文化的国家であると世界に紹介した。家族、地域社会が健全にはぐくまれ、地域ごとに個性を持ち、多様性を有していると。立派な文化をつくった日本人は戦後、確かに物質的、技術的な発展で妨げられた面もあるが、そろそろ、モラルを持って日本的な精神を保とうと、考え始めているんじゃないかな。社会的遺伝子は今も受け継がれていますよ。

安藤氏 でもハーンが現代の日本を見たら、きっとがっかりするでしょうね。太平洋戦争敗戦後、日本人が傾きかけた国を立て直そうとしたところまではよかった。ところが、世界の経済競争という別の形の戦争に積極的に参加し、勝利を収めようと躍起になった結果、本当の豊かさとは何かを考えることを置き去りにしてしまったのです。

李氏 その意味でも、私は台湾総督府の民政長官を務め、後に東京市長にもなった後藤新平を尊敬しています。彼の台湾を近代化させた功績は永久に残る。彼は、都市計画の基盤、いや台湾の基盤をつくったといっても過言ではない。それに比べて、今の日本のリーダーシップは弱すぎる。後藤新平や新渡戸稲造をはじめとする多くのすばらしいリーダーが日本にはいたのに…。

安藤氏 後藤新平は幕末に藩士の子として生まれましたが、明治を迎えて武士という職業がなくなり、医者を目指しました。彼の都市計画が独創的で優れているのは、都市計画だけを学んだ者には発想できない、医者という立場から衛生を軸に据えて都市計画を考えた、というところにあるのだと思います。李さんのご指摘通り、今の日本には独創的で、大きなビジョンを持ち、志の高いリーダーが必要ですね。

残念なことに日本人は戦後、おとなしくなりましたね。米国による占領政策の影響もありますが、教育も平均化して、非常におとなしい民族になってしまった。それに比べて台湾の人は、50人集まれば一つの方向を向きながらも、あちこちを見ているところがありませんか。これを、うまい具合に力を束ね、リーダーがまとめれば面白くなりそうだ。

李氏 日本における戦後の教育は、アメリカ流の自由主義になりましたね。だから孫娘はアメリカには留学させず、英国に出したんですよ(笑い)。ただね、安藤先生は間違っちゃいない

が、台湾人には日本人とまったく違う点がありますよ。日本の若い人もバラバラのように見えて、実は社会的なルールに従って行動している。ところが、台湾にはそれがまったくない(笑い)。考え方がバラバラでも、社会のルールに従って行動する気持ちがなければ。これは台湾の弱点と言わざるを得ません。

長谷川 視野を少し広げ、民族の確立という視点からアジアの現状をどう見ますか。

安藤氏 そもそもアジアというのは、同じような民族から成り立っているようで、実は多民族地域です。日本、台湾、韓国、中国から、ベトナム、タイ、そしてインド、イランまでアジアですよ。ところが、近代化、経済至上主義による世界の画一化が始まると、この多様性が失われていきます。情報化社会が進展していますが、バーチャルな(仮想の)世界がものすごいスピードで拡大する一方、多様性をもったリアルな(現実の)世界が崩壊しようとしている。これはなんとしても食い止めねばなりません。

李氏 私はバーチャル・リアリティーというのですが、技術の発展で情報が世界を飛び交うでしょ。便利なことはいいが、人間はうまく使いこなしておらず、情報の半分は虚構じゃないのか。各人がモラルを持ち、個を確立して自分を持たなければ、安藤先生のご指摘の通り、バラバラになってしまうんだ。



#### ■IV 調和

《人類は本当にがけっぷち 謙虚に生きていかねば》

安藤氏 バーチャルだけでは世界は成立しないはずなのに、経済一辺倒の価値観がそれを押し進めています。例えば、不動産投機もバーチャル世界のようなものですが、それが現実の人間の生活を不幸にしていることに人々は気づきません。マネーゲームはバーチャル世界の拡大に拍車をかけ、ひいては地球温暖化をも加速させているように思えます。人間生活の真の豊かさを考えなければ、結果的に22世紀まで人類が生き残ることはできないでしょう。

李氏 日本文化がすばらしいのは、高い精神文化とともに、人間生活と自然がうまく調和しているところにあります。安藤先生の偉大な建築物も、外国から入ってきた建築の考え方をもう一歩進め、自然の生活の中に取り入れようとする、実は日本的な考え方じゃないのか。そう思っていますよ。

安藤氏 私は20歳のころ日本を一周する旅をしました。そして美しい棚田や山々、民家を見ては心を打たれ、この国に生まれたことに感謝しました。ところが経済的繁栄と引き換えに、そのすべてが失われようとしている。民族が持つ固有の論理を尊重する。これを取り戻すことをこれからの指導者は考える必要があると思います。

李氏 昨年5月に日本を訪ねたとき、松尾芭蕉の「奥の細道」をたどりながら、山形県や秋田県を歩きました。そしてびっくりした。杉林の美しいこと！ あれだけの造林はどこに持って

いっても恥ずかしくない。私の専門は農業経済学で、総統時代は努力して成果を上げましたが、台湾にはあんなすばらしい森はまだない。環境保全の問題は非常に大切です。

環境問題といえば、今年7月には北海道の洞爺湖で主要8カ国首脳会議(サミット)が開催されますね。

安藤氏 まさに環境会議となるわけですが、実は私、東京湾に浮かぶゴミの集積場に緑を植えて「海の森」にするプロジェクトに参加しています。サミットで議長国となる日本は、経済大国という側面ではなく、「環境立国・日本」を世界に訴えるべきです。そこで自然と共に生きてきた日本人、すばらしい哲学をもった日本人を世界に発信したいと考え、「海の森」を世界中の人たちに見てもらおうと思っています。

李氏 それはいい考えだ。

安藤氏 ナポリではゴミの集積場が満杯になり市当局がゴミの回収をやめて街中がゴミだらけ。これを見るまでもなく人類は本当にかげつぷちに立っている。あと一步で生存まで危うい事態に直面している。これを地球市民全員が意識することが必要です。先人の知恵に学び、多様な価値観をこの地球上にとどめ、そして自然の中で人間が生かされていることを自覚し、謙虚に生きていかねば。これからの時代、価値観は地球です。

李氏 安藤さんみたいな大建築家にしても、最後に求めるのは永久の真理だ。これは難しいよ。だが、何とかこれを表現しなくちゃいけない。またいらっしゃい。台湾の若者にも話してやってほしいんだ。台湾は日本人から得ることがまだまだある。



#### 【プロフィール】李登輝

1923年、台北県生まれ。43年京都帝国大学農学部入学後に学徒出陣。戦後は帰台して台湾大学に編入。68年米コーネル大学で農業経済学の博士号を取得。中国国民党に入党後、台北市長、副総統などを歴任、88年、蔣経国総統の死去に伴い総統に昇格。96年、台湾初の総統直接選挙で圧勝。2000年、国民党主席辞任後、党籍を剥奪され、独自の政治活動を繰り広げている。



#### 【プロフィール】安藤忠雄

1941年、大阪生まれ。69年、安藤忠雄建築研究所を設立。79年、日本建築学会賞、96年、高松宮殿下記念世界文化賞を受賞。91年にはニューヨーク近代美術館で日本人初の個展を開催。97年、東京大学教授、2003年から名誉教授。同年、文化功労者。代表作に「住吉の長屋」(大阪市)「六甲の集合住宅」(神戸市)「光の教会」(大阪府茨木市)など。

Copyright 2008 The Sankei Shimbun & Sankei Digital

---

© 2008 Microsoft | **Microsoft**